

〈一般投稿論文〉[研究論文]

## 談話標識としての「なんなら」 —意味機能の語彙的要素と文脈依存性について—\*

水田 洋子  
国際基督教大学

Japanese *nan-nara* (lit. ‘some-if’) has a typical usage of softening the tone of a suggestion or an offer, as English *if you like* does. However, *nan-nara* exhibits a wider range of usages. This paper aims to provide a systematic analysis of the meaning and function of *nan-nara*. An indefinite pronoun *nan* and a conditional morpheme *nara* together create the additive and scalar meanings which take concrete content in different dimensions. The context activates relevant parts of the lexical semantic content of *nan-nara*. On this basis, the softening effect is reanalyzed and recent usages are discussed.

キーワード： なんなら、談話標識、あいまい性、複合性、文脈依存性、不定代名詞、条件節、additive meaning、scalar meaning、通時的变化

### 1. はじめに

日本語の「なんなら」(以下、ナンナラ<sup>1</sup>)の代表的な用法として、下記の例(1)～(2)におけるように、提案や申し出に控え目なニュアンスを与えることが挙げられる。

- (1) ペンがないんですか。なんならこれ使ってください。
- (2) 場所わかりますか。なんなら一緒に行きましょうか。

上記の例においては、ナンナラは「良かったら」とほぼ同じ意味に受け取れる。しかし、下記(筆者の作例)のように、ナンナラにはもっと多様な使い方がある。

- (3) [贈り物を購入した際]包装は簡単をお願いします。なんなら外箱にリボンシール

---

\* 本稿は水田(2022)を大幅に加筆修正したものである。本稿の改訂に際して、匿名の査読者の先生方から貴重なコメントをいただいた。深く感謝致します。最終稿に十分に反映されていない点や、まだ残っている問題点については、もちろんすべて筆者の責任である。

<sup>1</sup> 本文中で「なんなら」という表現に言及する際にはカタカナで「ナンナラ」と書き(括弧はつけない)、例文中の「なんなら」はひらがなのまま下線を付けて記す。

をつけてくださるだけでも結構ですよ。

(4) 駅から会場までは、バスの本数が多いので心配いりませんよ。なんなら駅前にタクシーも並んでますし。

(5) 旅行がしたいなあ。なんならヨーロッパにでも（行きたいな）。

上記 (3) では、聴者の想定を超えるであろう簡素な方法を示す際にナンナラが使われている。(4) では、バスという標準的な手段の他にタクシーという追加の選択肢を提示する際にナンナラが使われている。(5) では、願望を表す際に、話者が行先の一例としてふとヨーロッパを思いついたというニュアンスがナンナラから汲み取れる。

島田 (2018) は、近年ナンナラがより柔軟に使われている傾向にいち早く着目し、新用法と従来用法との関連を考察した。ナンナラを条件節的な構造を内包する副詞と考え、「新旧の用法に共通するのは『場合によっては』『状況が許すなら』という条件表現そのままの意味」(p. 20) と述べている。

しかし「条件表現そのままの意味」については議論の余地がある。ナンナラは具体的な条件節表現のショートカットであるということなのだろうか。しかし後述するように、ナンナラは 1 語の副詞とみなされている。実際、話者は多くの場合、条件節構造を意識せずにナンナラをひとまとまりで使っているように思われる。ナンナラが具体的な条件節表現にほぼ言い換えられる場合でも、1 語として固有の性質を持つことが考えられる。<sup>2</sup> すなわち、意味を生じるしくみや聴者への効果などの点で具体的な条件節とは異なっている可能性がある。

言語表現の談話中での意味や機能に注目した研究は、談話標識 (discourse marker, DM) あるいは語用論標識 (pragmatic marker, PM) などのラベルのもとに発展している。英語については、時や様態を表す副詞や、間投詞、句など (例えば、*now*, *anyway*, *actually*, *like*, *well*, *you know*) が DM に発達する現象が広く議論されている (Aijmer 2002; Heine 2013; Lenk 1998; Mazzon 2017; Schourup 2017)。英語の個別表現については、例えば Kim and Janhke (2010) が挙げられる。彼らは、フォーカス要素に後続する (多くの場合は発話末の) *even* を DM ととらえ、フォーカス要素に先行する「～さえ」の意味のとりたて詞 (focus particle) から通時的な意味変化を経たものと議論している。日本語については、Onodera (2002) は日本語の接続詞の「でも」と「だけど」、および終助詞の「ね」と「な」について、また Shinzato (2011) は副詞の「やはり」、「やっぱり」、「やっぱ」について、DM への発達を議論している。

<sup>2</sup> 「もし」を伴う「もしよければ (／良ければ)」と「もしよろしければ」の検索結果は 90 件あったが、「もしなんなら」は 0 件であった。このことも、ナンナラが具体的な条件節とは異なる性質を持つことを示唆している。

本稿では、ナンナラを DM ととらえ、その多様な意味機能<sup>3</sup>が何に起因しどのようなしくみで生成・解釈されるのかを体系的にとらえることを目指す。次節以降の構成は以下の通りである。まず、先行研究についてももう少し詳しく紹介し、本研究における DM の概念を述べる（2 節）。その後、ナンナラの意味機能についての予備的考察を行った後（3 節）、データ分析を行い（4 節）、体系化する（5 節）。これらをふまえて、ナンナラの使用における「控え目」のニュアンスの生成について再考し（6 節）、更に新用法の位置づけを議論する（7 節）。最後に結論と理論的含意を述べる（8 節）。

## 2. 先行研究

### 2.1. 日本語の構文論

日本語の構文論では、ナンナラは 1 語の副詞とみなされている（島田 2018; 飛田・浅田 2018）。副詞の下位分類でナンナラに関係のあるものとしては、工藤（2016）の「叙法副詞」、渡辺（1971）の「誘導副詞」、中右（1980）の「命題外副詞」が挙げられる。

工藤（2016: 12）は、願望に関する基本叙法の「勧誘・申し出 etc.」の下に「なんなら（なんでしたら）」を位置づけている。「etc.」が付いてはいるが、勧誘や申し出以外の機能（例文（5）に見る例示など）が考慮されていない。渡辺（1971: 310ff.）は、「もし」が仮定表現（「～なら／たら／れば」）を、「決して」が否定表現（「ない」）をそれぞれ予告する機能（「誘導の職能」）を持つとし、これらを誘導副詞と呼んでいる。誘導の職能とは、どのような表現とセットで使われるかという構文上の極性（polarity）と理解できる。中右（1980）は、命題内副詞と命題外副詞を区別している。前者は「命題の一部を形造するもの」（p. 161）であり、後者は「モダリティを表明する…命題とどのようなかわり具合にあるか、つまりは、命題をどのように修飾限定しているか」（p. 161）を表すものである。命題外副詞の下位分類に「発話行為の副詞」がある。中右は「発話行為の副詞は、…話者の発話時における心的態度を表明するという点で、モダリティの副詞である。が反面、これが他のモダリティの副詞から区別される明確な点は、それが命題内容そのものにかかわるというよりは、むしろ、命題内容をどのように述べるか、話者自らの発話の仕方に制限を加えるという働きをもっている」（p. 206）と述べ、例として英語の *frankly*, *strictly speaking*, *in short* などを挙げている。ナンナラはこの発話行為の副詞とみなせる。構文論において発話の概念をとりこんでいる点が注目されるが、「発言様式の限定」という機

<sup>3</sup> 意味と機能の区別は単純ではない。また、関連性理論における概念的意味（conceptual meaning）と手続き的意味（procedural meaning）の区別（Hall 2007）とも密接に関わっている。本稿では、文献（Aijmer 2002; Lenk 1998）で 'meaning and function' とひとくくりにしているのに倣い、また意味と機能の区別が本稿の議論において重要ではないことから、「意味機能」という用語を用いる。

能を指摘するにとどまる。また、対人的な機能には言及していない。

このように、構文論においては、構文上の役割に注目した副詞の分類が行われている。これに対して本稿では、ナンナラが談話中での発話の意味や解釈に及ぼす影響を掘り下げる。そのためには、DM および発話行為の観点からの考察が必要になる。DM は、一言で言うならば、談話中における言語表現や発話間のつながりに関わる概念である。構文論における DM の対応物は、副詞や接続詞、感嘆詞などの単語から、句や節に至るまで多様である (Heine 2013)。

## 2.2. 島田 (2018)

島田 (2018) は、ナンナラについての先駆的な研究である。「現代日本語書き言葉均衡コーパス 通常版」(BCCWJ) におけるナンナラの用例を検索し、その結果に基づいて、ナンナラの用法の分類を行い、それぞれの用例数を示した。具体的な内容は以下の通りである (pp. 3-4) : 申し出 (49 例)、示唆・提案 (41 例)、依頼・注文 (3 例)、妥協点の提示 (1 例)、願望 (2 例)。すなわち、申し出と示唆・提案が典型的な用法ということである。また、ナンナラに伴う動詞句に関わる動作主の違い (話し手／聞き手／その他) にも着目した。

ナンナラの基本構造と「控え目」の意味について、島田は次のように論じている。

「『何 (あなたの意向／状況的な前提) が何 (OK／ゆるす) なら』という条件節的構造を本来は備えつつ、...条件節的構造の前半部分の省略と、後半部分の「何」への置き換えによって、ある種の和らげやほかしの働きが生じ、行為への『控えめ』な言及という効果がもたらされる。」(p. 4)

また、従来用法と新用法を次のように比較している。

「新旧の用法に共通するのは『場合によっては』『状況が許すなら』という条件表現そのままの意味であり...新旧での決定的な違いは、新用法においては『聞き手への配慮』がほとんど含意されないことであろう」(p. 20)。

ナンナラの意味用法を体系的にとらえようとする試みは、本研究の方向性と共通している。しかし1節でも述べたように、「条件表現そのままの意味」という点については議論の余地がある。また、従来用法において「聞き手への配慮」が特徴的なのかという点も詳しく見たい。

また、前述のように島田は、ナンナラのもととなる条件節構造を2つの「何」を使ってとらえ、「前半部分の省略と、後半部分の『何』への置き換え」(p. 4) と述べているが、そうすると、ナンナラは文字通りには後半部分の「何 (OK／ゆるす) なら」であり、解釈の際に前半の「何が」を復元するということなのだろうか。本稿では単純に、1つの「なん」

と条件節を作る「なら」の組み合わせと考える。

### 2.3. Kim and Jahnke (2010)

Kim and Jahnke (2010) は、英語におけるフォーカス要素に後続する「発話末の」*even* (utterance-final *even*, UF-*even*) を DM ととらえ、その意味機能を議論している。UF-*even* が、フォーカス要素に先行する「～さえ」の意味のとりたて詞 (focus particle) の *even* (pre-focal *even*, PF-*even*) から発達したと考え、PF-*even* から UF-*even* への通時的な意味変化を議論している。以下に例を引用する。

- (6) *Even* John came to the party. (p. 37)
- (7) The ways in which our students communicate have changed . . . in the last five years *even*. (p. 43)
- (8) I could totally take the extras off your hands. Free of charge *even*. (p. 45)
- (9) C: can you not read it?  
A: View in Word. Or IE. B: Or wordpad works *even*. (p. 48)
- (10) I've lost my pen, my pencil *even*. (p. 50)

(6) は PF-*even* の例文である (「John さえ」の意味)。一般に、PF-*even* は、2つの慣習的含意 (conventional implicature) あるいは前提 (presupposition) を持つと分析されている。(6) の例では、「John はパーティーへ来た」という論理的含意 (logical entailment) とともに、2つの慣習的含意、すなわち「John 以外にもパーティーへ来た人がいる」 (“additive meaning”) および「John がパーティーへ来たことは注目に値する (期待されていなかった)」 (“scalar meaning”) が表される。

(7)～(10) は、UF-*even* の用法である。Kim and Jahnke は、(7)～(10) における UF-*even* が、それぞれ意外性 (“mirative”)、精緻化 (“elaborative”)、追加 (“simple additive”)、訂正 (“simple corrective”) の意味を持つと観察した。そして、これらの意味が PF-*even* の持つ additive meaning および scalar meaning から発達したと考え、*even* の通時的な意味変化のモデルを提案している。

例えば、(7) に見られる意外性の意味は PF-*even* の scalar meaning から発達したと分析している。(7) の UF-*even* を PF-*even* に置き換えただけでは容認できない (少なくとも意味が変わる) が、意外性を表す DM の *actually* を添えた (11) は (7) と同様の意味を表すと述べ、UF-*even* と PF-*even* の共通点と違いを説明している。

- (11) The ways in which our students communicate have changed ... *actually, even* in the last five years. (p. 43、イタリックスは原文のまま)

(8) に見られる精緻化の意味 (前に述べた内容を更に正確にあるいは詳しく述べるこ

と)は、16 世紀の *even* が持っていた “particularizer meaning” (*exactly, precisely* の意味)が復活したものと分析している。(particularizer meaning は PF-even の scalar meaning のもととなった。)また、精緻化の意味から更に、(9)に見られる単純追加の意味と(10)に見られる訂正の意味が発達したものと分析している。このように、UF-even の意味用法を *even* の通時的な意味変化の観点から体系的にとらえている。

Kim and Jahnke (2010) の議論は、ある表現に内在する意味的要素 (additive meaning と scalar meaning) から新しい意味や機能 (UF-even の 4 つの意味機能)が生じる過程を分析したものにとらえることができ、ナンナラの意味機能を体系的にとらえようとする本研究の参考になる。更に、ナンナラの意味機能は UF-even の意味機能と共通する部分が多い。例えば、例文 (7) ~ (10) はそれぞれ「…なんならここ 5 年間だって」、「なんならタダでも結構ですよ」、「なんなら workpad だって大丈夫ですよ」と訳することができる。この点からも、Kim and Jahnke (2010) の議論との関連を考える意義がある。<sup>4</sup>

#### 2.4. 談話標識に関する研究

DM は、文献によって概念も用語も違いが見られ、正確に定義することは困難であると認識されている (Aijmer 2002; Fedriani and Sansó 2017; Heine 2013; Lenk 1998; Mazzon 2017; Onodera 2002; Schourup 2017; Shinzato 2011, 2017)。例えば Heine (2013) は以下のように述べている。

The term discourse marker (henceforth: DM) is used in a wide range of senses and for quite a number of different phenomena, extending from monosyllabic interjection-like particles to clausal expressions ... Also called discourse particles, pragmatic markers, discourse connectives, adverbials, connecting adverbials, ...”  
(Heine 2013: 1206)

また DM の発達過程の説明においても、文法化 (grammaticalization) と語用論化 (pragmaticalization) が関わっており、両者の概念の区別は自明ではない (Heine 2013; Nishida 2007; Onodera 2004)。

Fedriani and Sansó (2017) は、DM (discourse marker)、MP (modal particle)、PM (pragmatic marker) の概念を区別しつつ、これらが密接に関わっていることを指摘して、緩やかに区別することを提案している。Shinzato (2017: 306) は、その提案に沿う形で、DM (discourse marker)、MM (modal marker)、PM (pragmatic marker) をおおまかに定義している。それによれば、DM は文同士の結束性 (cohesion) を表すもの、MM は、

<sup>4</sup> 英語の UF-even についての研究をそのまま日本語のナンナラに適用することはできないが、異なる意味機能が共有する基本的な要素に注目する点が参考になると考えた。



話者が命題に対して持つ様相あるいは評価におけるスタンスあるいは話者が聴者に対して持つ対人的なスタンスを表すもの、そして PM は社会的な次元での結束性を表すものである。

## 2.5. 本研究における DM の概念

ナンナラの分析に用いる DM の概念は、Shinzato (2017) における DM/MM/PM のセットの要素ととらえるべきか、それとももっと広くとらえるべきか。

発話行為論の先駆的研究である Austin (1975) は、発話を（意図や結果を伴う）行為とみなし、発語行為 (locutionary act)、発語内行為 (illocutionary act)、発語媒介行為 (perlocutionary act) の 3 つのレベルでとらえた。発話行為の観点で談話をとらえると (Kissine 2013)、談話にも上記 3 つのレベルが関わるため、それらすべてをカバーする DM の概念が必要になる。

本稿における DM の概念は、Heine (2013: 1211) に端的に表現されている。日本語でまとめると次の通りである：DM の主な機能は、発話を談話の状況—具体的には、話者と聴者のやりとり、話者の態度、and/or テキストの構成—に関連づけることである。また、Schiffrin (1987) の提案に従って、ある言語表現が DM とみなされるための基準を採用する。これは Fedriani and Sansó (2017) や Shinzato (2017) における DM の上位概念と位置づけられる。以下で Fedriani and Sansó (2017) 等における狭義の DM に言及する際には Dm と表すことにする。

Schiffrin (1987: 328) の提案する DM の基準は以下の通りである。

- (i) 構文的に文から切り離せる。
- (ii) 通常、発話の冒頭で用いられる。
- (iii) 韻律的なパターンに幅がある。
- (iv) 談話の局所的・大局的レベルの両方で、また談話のさまざまな次元で作用できなければならない。すなわち、意味を持たないか、意味があいまい (vague) であるか、あるいは再帰的であるということである。

上記の基準は、DM であるための必要十分条件ではなく、プロトタイプ属性のリストとみなせる。ナンナラは上記の (iii) 以外の基準を満たす。<sup>5</sup>

<sup>5</sup> (iii) については、筆者はナンナラの韻律は平坦アクセントで最後のみ下降するパターン（「高高低低」のアクセント）のみ想定している。しかし会話中のナンナラを詳しく調べれば、発音のバリエーションと機能分化が見出される可能性もある。これについては保留とする。

### 3. 予備的考察

データ分析に先だって、語彙意味論的な視点から予備的考察を行う。すなわち、「なん」と「なら」の組み合わせからどのような意味や機能が生じ得るかについて考察する。

内容語 (content word; Murphy 2010) を含まない言語表現がどのような意味や機能を持ち得るのかについて、「もしかしたら」が参考になる。これは「もしかしたら～かもしれない」の形で使われる誘導副詞 (渡辺 1971) であり、仮定法の条件節部分「もし A たら」をもとに副詞として文法化したものと考えられる。「もしかしたら」は、具体的な内容は持たないが、条件節というものに内在する仮想の意味から、可能性に言及する副詞となったと説明できる。

ナンナラも、内容語を含まない条件節が1語の副詞になっている。島田 (2018) は「何 (なん)」の内容を復元する方向でナンナラをとらえているように推測されるが、本稿では、内容が不定の「なん」が用いられていることに意義があると考え、「なん」と「なら」それぞれの意味や機能に基づいてナンナラの意味機能の見通しを立てていく。

#### 3.1. 「なん」について

まず「何 (なに、なん)」について考える。「何」には疑問詞 ('what') と不定代名詞 ('some') がある。前者の場合には、下記の例におけるように、「なん」の部分のアクセントが下降調で、「な」に強勢が置かれる。

(12) あれもだめ、これもだめって、いったい何 (なん) ならいいの？

これに対してナンナラにおける「なん」の部分は常に平坦アクセントである。このことから、ナンナラにおける「なん」は不定代名詞に絞られる。

Haspelmath (1997) は、不定代名詞の機能について、言語普遍的なモデル *implicational map* として提示している (p. 64, Fig.4.4)。概要は以下の通りである (番号は原文の通り)。まず、「(1) 指示対象が特定で既知 (specific, known) → (2) 指示対象が特定で未知 (specific, unknown) → (3) *irrealis* の文脈で不特定の指示対象 (*irrealis*, non-specific)」という流れがある。(3) は、「(4) 疑問／質問 (question)」と「(5) 条件文／節 (*irrealis*, non-specific)」に分かれる。それ以降についてはここでは省略する。個別言語についても *implicational map* が示されている。英語の場合は、*some*、*any*、および *no* の役割分担となる (ibid.: 65, Fig. 4.5)。

日本語の不定代名詞に *implicational map* が適用してみると、例えば、上記の番号に対応させて、(1) 昨日、ある人に会いました、(2) 「何か音がした」、(4) 「何か飲みますか」、などとなる。ナンナラは条件節由来であると想定すると、上記 (5) のケースになり、*irrealis* の文脈で「なん」の指示対象は不特定 (non-specific) ということになる。これは、



「なん」が特定の内容をほかすという島田（2018）の分析と異なる。これについて検討する。

- (13) 自分で言うのも {なん／あれ} ですが、足の速さには自信があります。
- (14) ここじゃ {なん／あれ} だからあっちで話そう。
- (15) {なん／あれ} ですねえ、こう長い間マスクをしていたら、マスクなしが恥ずかしくなってきますね。

上記（筆者の作例）では、「なん／あれ」は特定の内容をほかしたものと考えられる。(13) では「ためらわれる」、(14) では「不都合だ」などである。(15) における「なん／あれ」は、後続の内容を指す place holder とみなせる。しかし、(13) ～ (15) で「なん」が使われている文脈は条件節ではない。

そこで、日本語の不定代名詞に implicational map を適用し、ナンナラが条件節由来であるという前提で、ナンナラにおける「なん」の指示対象は不特定であると考ええる。

### 3.2. 「なら」について

「なら」は、「たら」や「れば」と同様に条件節を作る。そこで条件節の意味機能について考える。例えば「明日何をしますか」という質問に対して、「体を動かすこと」と答えた場合と、「晴れなら散歩、曇りならテニス、雨なら家で筋トレ」と答えた場合を比べる。後者は前者よりも詳細な返事である。もしも曇りの場合について、「曇りで4人集まればテニス、集まらなければ1人でジョギング」となれば、話は更に複雑になる。このように、条件節を使って場合分けを行えば、話は複雑・詳細になっていく。これを条件節の「縦方向の展開」と呼ぼう。

一方、同じレベルでの場合分け構造、すなわち「A なら～、B なら～、C なら～、…」を考える。これを条件節の「横方向の展開」と呼ぼう。横方向の展開では、2つ以上の場合が並列関係にあり、全体がそろって1つの情報を成す。すなわち、ある場合（例えば「A なら～」）が含まれることは、他の場合も1つ以上存在することを含意する（任意のAに対して、「A なら」があれば、少なくとも「A でないなら」のケースがある）。条件節には、このように縦方向と横方向の展開がある。

### 3.3. ナンナラについて

では「なん」と「なら」の作る条件節ナンナラはどのような意味機能を持ち得るか。不定代名詞「なん」は、具体的な内容を持たずに存在だけを表すと言える。そして、まず条件節の横方向の展開を考えた場合、「ナンナラ～」は「A なら～、B なら～、C なら～、…」という場合分けに含まれることを表す。これは、ナンナラに後続する内容について、1つの選択肢としての位置づけや可能性、そして他にも選択肢が存在するという意味、一

言でまとめれば additive meaning (以下、Add) を表す。

次に、縦方向の展開は条件の追加に相当する。条件が追加されるほど、条件を満たすことが厳しくなる。例えば上述の例で、「曇りならテニス」に対して「曇りで4人集まればテニス」となれば、テニスをするための条件が厳しくなる。しかし見方を変えれば、条件は付くものの、ナンナラに後続する内容に該当するケースが存在するということでもある。したがって、「ナンナラ～」が条件節の縦方向の展開のどこかに存在するということは、scalar meaning (以下、Scal) と同様の意味を表すと考えられる。具体的には、精緻化、極端なケース、意外性、可能性の開拓などを表し得ると予測できる。

### 3.4. UF-even との共通点

ここで、UF-even との共通点に注目したい。2.3 節で述べたように、Kim and Jahnke (2010) によると、PF-even の additive meaning から UF-even の単純追加の意味が、そして scalar meaning から UF-even の精緻化と意外性（極端なケースを含む）の意味が生じた。

上記 3.3 節で述べたように、条件節の横方向の展開は additive meaning に、縦方向の展開は scalar meaning に対応すると考えると、ナンナラは UF-even の意味機能と類似の意味機能を持つ可能性がある。

### 3.5. 「も」との共通点

沼田 (1995: 19) は、取り立て詞「も」の意味として以下の3つを挙げている。

- (16) 日曜日は、銀行も（郵便局も）休みです（も<sub>1</sub>）。
- (17) 彼は努力して、とうとうラテン語も（／さえ／まで）理解できるようになった。（も<sub>2</sub>）
- (18) 春もたけなわになりました。（も<sub>3</sub>）。

沼田は、「も<sub>1</sub>」は「単純他者肯定」、「も<sub>2</sub>」は「意外」、「も<sub>3</sub>」は「不定他者肯定」と分析している (pp. 19-20)。これら3つの「も」が1つのものなのか別々のもの（「も」は多義語）なのかについては保留にしている。

ナンナラの Add の意味は「も<sub>1</sub>」および「も<sub>3</sub>」と密接な関係があり、Scal の意味は「も<sub>2</sub>」と密接な関係がある。実際、ナンナラの用例では「(で) も」が共起することが多い。

### 3.6. まとめ

ナンナラの意味機能はその構成要素「なん」と「なら」の持つ意味や機能に起因すると考え、そこからナンナラが具体的に持ち得る意味機能の見通しを立てた。ナンナラは具体的な条件節としての内容語を欠くが、内容が不定の「なん」が用いられていること自体に意義があると考えた。これと、条件節を作る形態素である「なら」の性質とがナンナラの

意味機能の土台となる。

## 4. データ分析

前節の予備的考察を念頭において、具体的なデータを分析していく。

### 4.1. データおよびその分析手順

データは、先行研究における例文、筆者の作例、およびコーパスデータを用いた。コーパスデータは、コーパス検索アプリケーション『中納言』を用いた「現代日本語書き言葉均衡コーパス 通常版」(BCCWJ)における「なんなら」の文字列検索の結果(104例<sup>6</sup>)を用いた。データ分析の手順は以下の通りである。

- ① 申し出や提案などナンナラが使用される局所的な文脈(以下、「文構造」と、談話中におけるナンナラの意味機能を区別して考えた。
- ② データを概観して代表的な文構造を列挙した。
- ③ 各例文について、ナンナラの現れる文構造とナンナラの談話レベルでの意味機能を分析した。

①については、例えば次の例文を考える。

(19) 事務所は午前中がすいてるわよ。なんなら今からでも行ってきたら？

上記(19)において、ナンナラが使われている第2文の文構造は「提案」である。ナンナラの意味機能については、第2文だけを見ると提案を和らげているように見えるが、第1文との関わりで見ると、「午前中」の具体的かつ(やや)想定外の例として「今からでも」を挙げていることを示している。ナンナラの意味機能の分析において、こうした談話レベルの観点に注目した。

### 4.2. 用例ごとの分析

データに現れる代表的な文構造は、以下のように分類された：

㊦提案、㊧申し出、㊨許可・妥協、㊩願望、㊪その他。

以下で、具体的なデータの分析を行う。例文の最後に、コロンに続けて上記の文構造

<sup>6</sup> 島田(2018)で報告されているナンナラの検索結果は96例であり、本稿における検索結果は104件であるが、この差はBCCWJのデータバージョンが2021年3月に改訂されているためと考えられる。

(㊦提案～㊧その他)を付す。

#### 4.2.1. 作例の分析

前出の例文 (1) ～ (5) (番号を付け直して再掲) を分析する。

- (20) ペンがないんですか。なんならこれ使ってください。: ㊦提案／㊧申し出
- (21) 場所わかりますか。なんなら一緒に行きましょうか。: ㊧申し出
- (22) [贈り物を購入した際]包装は簡単にお願いします。なんなら外箱にリボンシールをつけてくださるだけでも結構ですよ。: ㊧許可・妥協
- (23) 駅から会場までは、バスの本数が多いので心配いりませんよ。なんなら駅前にタクシーも並んでますし。: ㊧その他
- (24) 旅行がしたいなあ。なんならヨーロッパにでも (行きたいな)。: ㊦願望

(20) は、聞き手の行為に関する発話であるため「㊦提案」ともとれるが、実質的には話者がペンを貸すという「㊧申し出」とみなせる。聞き手が自分のペンを探している状況で、それに代わる選択肢として、話者のペンを使うことを提案している。すなわち選択肢の追加である。少し異なる見方をすれば、聴者が自分のペンを探している状況で、話者のペンを借りるという新たな視点を導入しているともみなせる。いずれにせよ、聴者が困っている状況を打開する方法に言及する際にナンナラが使われている。なお選択肢の追加は、「㊦提案」および「㊧申し出」の文構造と密接な関係にある。(21) も、聞き手が1人でどこかへ向かおうとしている状況で、話者が一緒に行くという新しい選択肢／視点を提示している。

(20)、(21) とともに、既存の選択肢もふまえての発話であることを表すことから、提案や申し出に「和らげ」あるいは「控え目」のニュアンスを与える。また、「気遣い」の表現として慣用化している面もある。

(22) ～ (24) については1節でも述べた。(22) で、リボンシールを貼るだけというのは、「贈り物は包装するもの」という(一般的な通念かつ)聴者の想定を超える簡素な方法であり、それを示す際にナンナラが使われている。(23) では、バスが標準的な手段であるという想定のもとに、それ以外のタクシーという選択肢も追加で提示している。(24) では、願望を表す際に、話者が単なる1例としてヨーロッパを思いついたというニュアンスがナンナラから汲み取れる。(20) ～ (24) のいずれにおいても、ナンナラは、命題内容に直接関わる情報ではなく、後続する言語表現や発話の談話中での位置づけについての情報を表すと観察される。

- (25) 事務所は午前中がすいてるわよ。なんなら今からでも行ってきたら? : ㊦提案

上記例文 (25) (5.1 節で (19) として挙げたもの) には、例示と意外性、および気づき

(河野 2020) が関わっている。「今から」は、聴者が想定するよりも急なタイミングであろう。ナンナラは、「あなたの都合に合わせていつでもいいですが」という含意を持たせて、「今から」という極端な提案を和らげる効果を持っている。また、「あ、まだ午前中だから今からでも行ける」と話者がふと気づいた（しかしそれが特に良い案かどうかは検討していない）ことも表す。

#### 4.2.2. コーパスデータおよび島田 (2018) の例の分析

続いて、BCCWJ のコーパスデータおよび島田 (2018) に含まれる例文を分析する。中俣 (2021) に従い、BCCWJ のデータにはサンプル ID と開始位置を付した。

- (26) タクシーで送ってさしあげます。ああ、なんならここに泊まっていけばいいではないですか？ (LBd9\_00042 35010) : ㊦提案
- (27) いいや、いる！ここにいる！なんなら証拠を見せようか！ (LBq9\_00077 55330) : ㊧申し出
- (28) 六時間毎に二錠嚥みなさい。それとも、四時間毎、なんなら、いっぺんに全部でもね。 (LBe9\_00051 45970) : ㊨許可・妥協
- (29) 「どうぞ、主人のぶんもお召し上がりになってください」と、母親は粹な勧め方をした。「なんなら私のも半分」と悦子も笑いながら言った。「とんでもない、僕は少食なほうです」 (PB59\_00505 15090) : ㊩申し出
- (30) 夜は驚くほどにシラフでっす。なんなら、就職の面接にも行けるほどに。(OC14\_11890 440) : ㊪その他
- (31) 海へ山へと遊びに行こうよ／朝の早よから蟬たちの目覚まし鳴り響く  
ビキニ姿でスイカ割り／(なんならスイカになりたいよ！)  
(島田 2018: 11) : ㊫願望
- (32) <トランプ大統領を見ていると何かに似ている...そうだ、厚揚げだ。なんなら厚揚げの『厚』って字にも割と似てる> (島田 2018: 6) : ㊬その他
- (33) 私の場合、就活は普通にしていたため、とある別の企業さんから内定も頂いていたんですが (なんなら内定式も行った)、そこで「あ、私この会社だとすぐ辞めちゃうかも」と思ったんですよね。(島田 2018: 8) : ㊭その他

ナンナラの用法の通時的な連続性および共時的な分布を考えれば、従来用法と新用法の区別は明確でなく個人差もあるはずだが、以下では筆者の直観に従って観察する。<sup>7</sup>

<sup>7</sup> ナンナラの用例の分析においては、①新旧用法の（大まかな）区別と、②それぞれの用法についての詳細な観察、という課題がある。データの信頼性を高めるために、十分な人数の被験者による自由記述の回答を定性的・定量的に処理することが考えられるが、それ自体難しい課題を含み、本稿の範囲を超える。例えば上記①については被験者の世代を考慮した分析が必要となる。上記②は

(26)～(29)は違和感のない従来用法であり、(30)は若干の違和感がある。(31)～(33)は島田(2018)が新用法と位置づけているものである。

(26)では、聴者をタクシーで送っていこうと思っていた文脈で、聴者を自分の家に泊めるという新しい案を提示している。ナンナラはふと思いついたというニュアンスを表し、先行する「ああ」はそのタイミングを表している。また、ナンナラは提案に控え目なニュアンスも与えている。(27)は、申し出に対して控え目ではなくむしろ挑発的なニュアンスを表している。何らかの状況を打開する目的で聴者の視点に立って提案や申し出を行っている点は、(26)の「控え目」の場合と同様である。違いは次のように考えられる。(26)では、聴者に対する提案や申し出が押しつけがましくならないようにナンナラが使われている。それに対して(27)では、聴者が話者の主張に納得しない状況を打開するための申し出でナンナラが使われている。すなわち、前者の場合は、ナンナラは話者主導の提案に対して聴者の意向を考慮していることを表し、後者の場合は、ナンナラは(推測される)聴者の意向が主導で話者が申し出／提案をしていることを表す。また、前者はAddに基づく和らげの効果、後者の場合はScalに基づく「極端なケース(こんなこともできる、というニュアンス)」を表すと説明することもできる。

(28)は、「6時間ごと、4時間ごと、いっぺんに全部」というエスカレートの構造が背景にある。単に選択肢が後続することを示す「あるいは」と違い、ナンナラは極端なケースが後続することを示唆する。共起表現の「いっぺんに全部でもね」における意外性を表す「も<sub>2</sub>」(沼田1995)も同様の働きをしている。また、いっぺんに全部飲むという極端なケースにまで言及する必要があるか疑われるためhedge表現(Huang 2015)としてナンナラを使っていると考えられる。別の言い方をすれば、極端なケースに言及するための導入の目的でナンナラを使っていると考えられる。(29)は、聴者の本来の割り当てに加えて、母親が「主人のぶん」を追加で差し出した文脈で、更に「私のも」と追加している。すなわち、ナンナラはエスカレートの構造における追加を表す。同時に、Addに起因する和らげ・控え目のニュアンスも与えている。(30)は、ナンナラの直後に句点があることから、DMの位置づけが明らかである。「ほどに」と共起していることから「例えて言えば」という意味に解釈できる。話者は就活中でない場合もあり得るため、ナンナラは「行こうと思えば」、「必要なら」という条件節的な意味に帰着させることはできない。強いてナンナラを条件節的な意味と結びつけるとすれば、「就活中なら」という仮想的な状況設定を表すと言えるが、それは例えの用法と実質的に同じである。

続いて、新用法についてである。(31)については、「ついでに言えば」や、ふと頭をよぎった考えを表しているように解釈できる。ナンナラを含む文が括弧内にあることはそれ



を示唆している。別の解釈としては、「海へ山へと遊びに行き、ビキニ姿でスイカ割り」という文脈で、更に話者がその想像の世界に入りこんで自分がスイカになっている状況に言及し、そのくらい遊びに徹したい、「いっそのことスイカになってしまいたい」、という気持ちを表している可能性も挙げられる。例文の「／」で区切られた部分に遊びのシナリオの発展が表され、例文(28)に見られるエスカレートの構造との類似性が見られる。「なんならスイカになりたいよ!」と感嘆符で終わっていることから、一種のクライマックスも感じとれる。ナンナラを使うことによって解釈の幅を持たせている可能性もある。(31)では願望を表す「～たい」と共起しており、筆者の直観では(28)と違って少し違和感を覚える。島田(2018)の検索結果でも、願望の文脈での用例は2例のみであった。

(32)～(33)は文構造が叙述である点が特徴的である。(32)は、厚揚げという物から「厚揚げ」の「厚」という字(特に、部首の雁垂れ)に視点を切り替えている。トランプ大統領を見る別の視点を示しているのである。また、「割と」と共起して、「ちょっと～感じがする」というニュアンスも感じとれる。これは、複数の見方が存在してそれらを切り替えていることを表し、Addに帰着できる。また、厚揚げという見方から更に踏み込んで「厚」という字に注目したことは、見方の精緻化にあたり、エスカレートの意味を表す(28)と類似している。(33)は、筆者の直観では最も違和感があるが、関連情報を述べる際の「ちなみに」、「ついでに言えば」の意味に解釈される。ナンナラの文が括弧内にあることもそれを示唆している。またこれは、発話の態度を表すとともに、ナンナラに後続する情報の位置づけを表す。

このように、若干の違和感のある(30)や新用法の(31)～(33)についても従来用法と同様のしくみが見いだせる。しかし違いとしては、新用法やそれに準じるケースでは、提案や申し出などの場合と異なりナンナラの発話がそこで完結して、聴者の行動に影響を与えることが想定されていない点が挙げられる。例えば提案の場合なら、聴者はそれを(採用するか否かは別として)参考にして行動する。しかし、(30)～(33)においては、ナンナラの発話は聴者に所定の情報を与えるものの、聴者の行動に影響を与えない。すなわち、従来用法と(30)～(33)の違いは、話者が明確な発語媒介行為を意図しているか否かであると考えられる。

## 5. 体系化

3節での予備的考察をふまえて、4節でのデータ分析で観察されたナンナラの意味機能を体系的にとらえていく。

### 5.1. データ分析からの示唆

データ分析から判明したことと示唆されることは以下の通りである。

- (a) 各用例におけるナンナラの意味機能は、単一ではなく複合的であった。このことから、ナンナラは具体的な条件節には置き換えられないことが示唆される。
- (b) 1つの例の中で、Dm/MM/PM (2.6節を参照) のレベルの意味機能が共存しているケースが多く見られた。すなわち、ナンナラの Dm/MM/PM としての多層性が示された。例えば (26) におけるナンナラは、聴者をタクシーで送っていくという案から聴者を自分の家に泊めるという案に切り替えることを示す点で Dm であり、後者の案がその場でふと思いついたものであることを示す点で MM であり、また提案に控え目なニュアンスを与える点でも MM である。
- (c) 従来用法にも、「控え目」や「聞き手への配慮」とは直接関係ない用法が見られた。例えば (28) では、「6時間ごと、4時間ごと、いっぺんに全部」というエスカレーターの構造の中での極端なケース（「いっぺんに全部」）に言及する際にナンナラが使われている。
- (d) しかし、前述 (4.2.2 節) のように、(28) でナンナラが「いっぺんに全部」というケースに言及するための導入の役割を果たしていると考えれば、広義の「聞き手への配慮」ととらえることもできる。したがって、島田 (2018) が従来用法の特徴と位置付ける「聞き手への配慮」については、より適切な表現を用いて議論を深める必要がある。
- (e) ナンナラの多様な意味機能は、不定代名詞および条件節の意味機能の特徴に基づく観点から整理できる。いろいろな次元でこれらの意味機能が実現される（具体的には 5.2 節で述べる）。
- (f) 語彙意味論的には、ナンナラの意味機能は vague (Murphy 2010) であり幅広いポテンシャルを持つ。そして、文脈的要因に依存して、複合性を持ちつつある程度具体化される。
- (g) ナンナラが聴者に与える効果としては、例えば、何か課題に直面している状況で話者がナンナラで発話を始めると、聴者は何か提案が後続することを予測する。また、(28) に見るように、話の展開の唐突さを避ける、前置き効果（導入効果）もある。
- (h) 従来用法においては、ナンナラの発話が聴者の思考や行動に影響を与えることを意図している点が特徴的である。新用法や多少の違和感のある用法である (30) ~ (33) では、それが認められないことが特徴的である。この点については 7 節で更に議論する。

## 5.2. ナンナラの意味機能の整理と語彙意味論的構造

まず、不定代名詞の特徴（以下、Indf）に関わる意味として、「存在・可能性のみを表す」ことが挙げられる。これは 任意性やアドホック性の意味につながる。データ分析で

観察されたナンナラの意味機能は、この Indf と条件節の横方向および縦方向の意味の組み合わせ、すなわち Add および Scal として、以下のように整理できる（網羅的ではない）。

### 1. Add に関わるもの

- 提示する情報の位置づけ：

例示、単に 1 つの選択肢にすぎないこと、補足的な関連情報

- 話者の認識に関して：ふと浮かんだ案、意外性、なんとなく感じること
- 話者と聴者の認識に関して：視点の切り替え、新しい可能性の提示
- 後続する発話行為について：

→ 談話中での関連性や必要性についての hedge 表現として（導入効果、「ちなみに」）。話者の躊躇や留保、聴者との距離感

- 対人的効果：和らげのニュアンス

### 2. Scal に関わるもの

- 提示する情報の位置づけ：精緻化（可能性の開拓、レベルのエスカレート、詳細情報、別の言い方での説明）
- 話者と聴者の認識に関して：標準的なレベルあるいは話者や聴者の想定を超えることに言及
- 後続する発話行為について：文脈内にある課題に対して状況打開に関わる発話をすることを示す。
- 対人的効果：「こんなこともできる」というニュアンスを表す（聴者に対する挑発的な態度を表したり脅しに近い効果を持つ場合を含む）。

上記に見るように、Add や Scal が、いろいろな次元（後続情報の位置づけ、話者や聴者の認識、対人的なスタンスなど）で展開される。上記項目 1 と 2 は排他的ではなく接点を持つ（特に、「可能性の開拓」は項目 1 と 2 に共有されている）。一般に条件節「X なら A」は、新たな場合 X を挙げて、その場合に特定して話を掘り下げることにあたる。ナンナラの意味機能はその 2 つの側面と不定代名詞の性質の組み合わせである。

したがってナンナラは、語彙意味論的には、Add および Scal に起因した意味機能がいくつかの次元で展開する vague な総体と考えられる。<sup>8</sup> そして、文脈的要因に基づいて所定部分が柔軟かつ複合的に活性化されると考えられる。

<sup>8</sup> ナンナラの意味機能は、不定代名詞と条件節の一般的性質の組み合わせとしてとらえられ、「なん」と「なら」の字義通りの意味の組み合わせではない。また、ナンナラの意味機能は取り消し不可で、ナンナラという言葉表現固有のものと考えられる。そのため、ナンナラの意味機能は vague な慣習的含意とみなせる可能性があるが、更につめて議論する余地がある。

### 5.3. ナンナラの使用を支える文脈的構造

具体的な条件節とナンナラには使用条件における違いが見られる。発話行為のレベルで使われる具体的な条件節をナンナラと比べる。

- (34) じゃあ行ってくるわね。{おながすいたら／??なんなら}冷蔵庫にサンドイッチがあるからね。

上記の第2文は条件文であるが、前件（条件節）「おながすいたら」は、後件の命題「冷蔵庫にサンドイッチがある」が成り立つための条件を表してはいない。冷蔵庫にサンドイッチがあるというのは、聞き手の状況によらないからである。「おながすいたら」が対応するのは、「冷蔵庫にサンドイッチがある」という命題ではなく、その発話行為における発語内行為（情報提示や許可・提案）である。聴者が空腹にならないければ「冷蔵庫にサンドイッチがある」という情報は必要はないと考え、「おながすいたら」は後件の「冷蔵庫にサンドイッチがあるからね」という発話行為の準備的な役割を果たしていると考えられる。すなわち、この条件節は、後件の発話を聴者にとって関連性のあるものとするための状況設定を行っているともみせる。

さて、「おながすいたら」をナンナラに置き換えると違和感を生じる（筆者の直観による）。これは、ナンナラが具体的な条件節の置き換えではないことを示唆している。

これに対して、以下の例文ではナンナラでも自然である。

- (35) おやつにこのクッキーを食べてね。{足りなければ（、他のものが良ければ、etc.）／なんなら}冷蔵庫にサンドイッチもあるからね。

例文（34）との違いは、前段階として「このクッキーを食べてね」があることである。その文脈で、ナンナラは、「クッキーで足りなければ」、「他のものが良ければ」などの条件を包括して表す。この例では、「クッキーを食べる（あるいは食べない）」の次の段階として「サンドイッチを食べる」に言及されているという構造がある。「サンドイッチも」の使用もこれに関与している。談話中でのトピックを更に発展させる際にナンナラが使えることは、Scal に帰着できる。（34）の場合は背景に Scal に帰着できる段階的な構造がないためナンナラが使えないと分析できる。

更に考えてみる。（34）において「じゃあ行ってくるわね」の後に「楽しい午後も過ごしてね」があると、ナンナラが許容できる。また、ナンナラがないと不自然になる。ここでは、ナンナラが「楽しい午後も過ごしてね」と「冷蔵庫にサンドイッチがあるから食べてもいいですよ」をつなぐ働きをしている。すなわち、サンドイッチを食べることと楽しい午後も過ごすこととの間に関連性が見出される。もとの（34）のように前後の発話に関連が見出すのが困難な場合にはナンナラが使用困難となるが、ナンナラによって関連性が作り出される範囲内ではナンナラが使用可能となる。これも、状況打開や話の発展に関連し

た Scal に帰着できる。

## 6. 「控え目」のニュアンスの再考

前節までの議論をふまえて、従来用法において代表的とされる「控え目」の用法について再考する。

### 6.1. ポライトネスの観点から

ナンナラは、主に Add に起因して、単に1つの選択肢としての位置づけを表し、また発話に何らかの距離感（間接性）を与え、hedge 表現として機能する。特に、提案や申し出を相手に押し付けないネガティブポライトネス (Brown and Levinson 1987)<sup>9</sup> を生じる。これは、取り立て詞の「も」(沼田 1995) や英語の *sort of* (Aijmer 2002) の場合と同様である。

- (36) 診察結果を先生から先方に報告していただくことになっておりますが、なんなら私が自分で報告しても結構ですよ。

上記 (36) においてナンナラを「お忙しければ」、「ご面倒なら」と言い換えた場合と比べると、ナンナラの方が一種のさりげなさ（でしゃばらない雰囲気）を伴う。具体的な内容を非明示にしたナンナラは、既存の選択肢（先生から先方に報告）を残しつつ別の提案を行う意味合いを与えるだけである。ナンナラは、単に簡易表現として存在するのではなく、具体的な内容を非明示にしてあること自体に存在意義を持つことが示唆される。<sup>10</sup>

- (37) ちょうど今アップルパイが焼けたんです。{よかったら／??なんなら}召し上がりませんか。

例文 (37) における「よかったら」は、「お口に合うかどうかわかりませんが」のような謙虚な意味に解釈され、ポライトネスを上げる。これをナンナラに置き換えると、筆者の直観ではポライトネスが下がる。なぜだろうか。「よかったら」は提案を相手に押し付けないというネガティブポライトネスの観点から「控え目」を表すが、ナンナラは、発語内

<sup>9</sup> ポライトネスについての理論は Brown and Levinson (1987) に限られないが、ポライトネス理論そのものの詳細は本稿の範囲を超える。ここで言及しているネガティブポライトネスは、広義のものである。すなわち、社会的に目上の人に対するものに限らず、例えば親しい友人に対して「明日映画に行かない？」と疑問文を用いる場合のように、相手の意志を尊重する場合なども含める。提案や申し出におけるナンナラは、その意味でのネガティブポライトネスに関わっている。

<sup>10</sup> 単なる「なら」は談話中で相手の発話内容を受けて用いる「それなら」の「それ」が省略されたものであり、ナンナラとは異なる。



行為を和らげる効果、すなわち相手にさしあげる行為（話者の気持ち）自体を控え目に表してしまうためと分析される。

次に、クレームをつけてくる顧客に対して、店員が以下のように言ったとしよう。

- (38) ですから、さきほどからご説明している通りです。なんならお客様のクレームを公表させていただいても結構ですけど？

この例では明らかに、聞き手が望まないことを提案しており、脅しに近い効果を持つ。これは2通りの説明ができる。1つめは、Scalに起因して、聴者が想定していない領域に踏み込む意味合いが生じることである。これが、「あなたが想定していないことを、こちらはできるんですよ」という意味合いとなる。もう1つは、アイロニー的な使い方としての説明である。聴者が望むはずのないことに対して、「よかったら」に相当する気遣いの表現を使うことにより、アイロニー効果をもたらす。これは、相手が恩恵を受けることを示す「させていただく」やほかし効果のある発話末の「けど」という共起表現、および疑問文の使用にもあてはまる。「～しますよ！」といった直接的な強い表現と対照的に、上記のナンナラを伴う発話では、相手の嫌がることをちらつかせることにより独特な効果を生じる。更に、上記例文ではナンナラの発話が、「クレームを公表されたくなければそれ以上言うな」という間接発語内行為も行っている。

## 6.2. 提案や申し出におけるナンナラ

提案・申し出の文脈における「控え目」のニュアンスについて、前出の例文（番号を改めて再掲）と追加の作例により再考する。

- (39) 道わかりますか。なんなら一緒に行きましょうか。  
 (40) いいや、いる！ここにいる！なんなら証拠を見せようか！(LBq9\_00077 55330)  
 : ①  
 (41) 私の料理に文句ばかり付けて。なんならあなたが作ってくれてもいいのよ。

上記(40)～(41)において、ナンナラは提案とともに使われているが、(39)のような控え目なニュアンスは感じられず、むしろ攻撃的なニュアンスが感じとれる。(40)は(27)の再掲である。「ここにいる！」という話者の主張が聴者にすんなりと信じてもらえない状況で、「証拠を見せる」という次のステップを提案している。(41)では、話者が料理を作るものと決めている相手に対して、「自分で作る」という新しい（想定外の）視点を示している。(39)も、聴者が1人で行くという前提を取り下げて話者が一緒に行くという新しい視点を示している点では(40)～(41)と同じである。ニュアンスの違いはどこから来るのか。

まず(40)～(41)だけを見ると、ナンナラは聴者の意向への配慮を表しているように



も見える。しかし(40)では、「聴者の意向への配慮」は聴者が話者の主張を信じない現状を指摘・強調することとなる。(41)では、聴者の方への視点の切り替え（料理をする人の候補に挙げる）自体が聴者にとっては嬉しくないことである。このため、これらの文脈では、攻撃的あるいは嫌なことをちらつかせるような効果を生じる。前出の(38)についても同様である。つまり、ナンナラが(39)におけるような典型的な「控え目」あるいは和らげの効果を持つことには、文脈的要因が関わっている。

更に、このような攻撃的なニュアンスでの使い方が慣用化している可能性もある。Mazzon (2017: 290) は英語の DM の通時的な変化を分析し、いくつかの DM において、ポライトネスの機能が逆の（対人的な摩擦を増大させる）方向に発展する現象（“deontic reversal”）を指摘している。<sup>11</sup>

以上の考察から、「控え目」の意味は提案や申し出に伴う場合が多いが、文脈的要因が関わり、提案や申し出の文構造で必然的に生じるものではないことがわかった。

## 7. 新用法の位置づけ

### 7.1. 島田 (2018) の分析

島田 (2018) は、新用法についても具体的な条件節への言い換えによって考察を進めている。基本的な言い換え表現として以下の(ア)～(ウ)を挙げている。

- (ア) なお言えば（ついでに言うと）、あえて言うなら（言わせてもらえば）
- (イ) ややもすれば、とすると
- (ウ) 下手すると、放っておくと、油断すると (島田 2018: 16)

島田は、(ア)は言表態度に関わる用法、(イ)(ウ)は言表事態に関わる用法と区別している。更に、ナンナラの多様な意味機能について、次のようにとらえている。

この(ア)～(ウ)は相互排他的に…「用例の分類先」としての項目ではなく、新用法「なんなら」の意味を構築する意義素のような成分として扱われるものである。個々の用例からその意味成分を取り出すことによって、新用法同士の間、あるいは新旧の用法の間に相互の関連性を見出そうとする試みであるため、意義素は各用例においてしばしば重層的にタグ付けされる。(p. 17)

そして、「これら（注：(ア)～(ウ)）の要素によって総合的に構築される文脈的含意を

<sup>11</sup> したがって、ポライトネスについては、ナンナラの意味機能はポライトネスを上げるか下げるか両方の可能性があり、underspecified（未確定）である。underspecification の概念の形態論や（語彙）意味論への応用については Bunt (2007) に議論がある。

## 7.2. 本稿の分析

上記の考察（ナンナラの発話が聴者の思考や行動に影響を与えるか否か）に基づけば、従来用法ではナンナラが他のレベルと複合的に間主観的（intersubjective）なレベルで用いられると言える。これに対して、新用法では単に話者の認識におけるアドホック性や後続情報の補足的位置づけや言い換え表現としての位置づけなどを表すため、epistemic（様相的）、主観的（subjective）、あるいはテキスト的（textual）なレベルで用いられ、間主観的（intersubjective）なレベルは関わっていない。島田の指摘する新用法のタイプ（ア）～（ウ）（上記 7.1 節で言及）にも間主観性が関わっていない。ナンナラにおける intersubjective から epistemic、subjective、textual への変化は、Mazzon（2007）の提案するモデルと逆向きの通時的変化である。従来用法は共存しているためナンナラ自体は依然として intersubjectivity レベルの DM であるが、新用法に注目すれば intersubjectivity 以

前の段階のDMとしてふるまっているとみなせ、一種の back formation ととらえられる。英語と日本語を単純には比べられないが、このことは興味深い。

上記の考察により、島田（2018）が従来用法の特徴であり新用法にはない性質として指摘する「聞き手への配慮」は、間主観性（intersubjectivity）と言い換えるのが妥当であると考えられる。

## 8. 結論と理論的含意

ナンナラのDMとしての意味機能を、理論的・実証的な観点から議論した。

ナンナラを不定代名詞「なん」と条件節を作る「なら」の組み合わせと考え、それぞれの意味的な性質から導かれる Add と Scal と対応させて、ナンナラの多様な意味機能を説明した。ナンナラは具体的な条件節のショートカットではなく、具体的な内容を非明示にしてある点に存在意義がある。

従来用法において代表的な「控え目」の意味は、他にも選択肢があるという含意から来る和らげの意味と、当該の発語内行為を和らげる効果に帰着できる。しかし文脈的要素が関わるため、提案や申し出においてナンナラが使われた際に必然的に生じるものではないことを示した。

近年の新用法は、ナンナラが願望や叙述の文で使われることが多い。従来用法と異なり、ナンナラの意味機能はその発話内で完結し、聴者の行動に反映される要素がない点特徴的である。英語のDMの一般的な通時的変化のモデルと比べると、新用法ではナンナラが intersubjectivity 以前の段階のDMとしてふるまっており、一種の back formation ととらえられる。

本稿は、多様な意味機能が何に起因しどのように生成されるのかを語彙意味論的な観点と語用論的観点から分析した。したがって、語用論と語彙意味論との接点あるいは融合に関わる研究である。また、確立された特定の語用論の理論的枠組みの応用事例ではなく、課題発掘型の研究と位置づけられる。

純粋に語用論的な研究としては、関連性理論の枠組みでの分析が考えられる。同じ問題を全く別のアプローチで分析し、それらを比較融合すれば、1つのアプローチでは得られない新しい知見が得られることが期待される。

## 参考文献

- Austin, J. L. 1975. *How to Do Things with Words* (2nd edition). Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Aijmer, K. 2002. *English Discourse Particles: Evidence from a Corpus*. (Studies in Corpus

- Linguistics* 10). Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Brown, P. and S. C. Levinson. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Bunt, H. 2007. "Semantic Underspecification: Which Technique for What Purpose?" In Bunt, H., and R. Muskens (eds.) *Computing Meaning Volume 3 (Studies in Linguistics and Philosophy* 83), 55–85. Dordrecht: Springer.
- Fedriani, C. and A. Sansó. 2017. "Introduction (Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles: What Do We Know and Where Do We Go from Here?) " In Fedriani, C. and A. Sansó(eds.) *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles: New Perspectives*, 1–33. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Hall, A. 2007. "Do Discourse Connectives Encode Concepts or Procedures?" *Lingua* 117, 149–174.
- Haspelmath, M. 1997. *Indefinite Pronouns (Oxford Studies in Typology and Linguistic Theory)*. Oxford: Oxford University Press.
- Heine, B. 2013. "On Discourse Markers: Grammaticalization, Pragmaticalization, or Something Else?" *Linguistics* 51 (6), 1205–1247.
- Huang, Y. 2015. *Pragmatics* (2nd edition). Oxford: Oxford University Press.
- 河野武. 2020. 「情動的関連性の気づき・気づかせの標識としての Oh と Ah」、『人間生活文化研究』 30、60–80.
- Kim, M-J and N. Jahnke. 2010. "The Meaning of Utterance-Final *Even*". *Journal of English Linguistics*. 39(1), 36–64.
- Kissine, M. 2013. *From Utterances to Speech Acts*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 工藤浩. 2016. 『副詞と文』 東京：ひつじ書房.
- Lenk, U. 1998. *Making Discourse Coherence: Functions of Discourse Markers in Spoken English*. Tübingen: Gunter Narr.
- Mazzon, G. 2017. "Path of Development of English DMs: (Inter) subjectification, Deontic Reversal and Other Stories." In Fedriani, C. and A. Sansó(eds.) *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles: New Perspectives*, 289–304. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- 水田洋子. 2022. 「談話標識としての『なんなら』: 多様な意味用法への文法化現象」、『日本語用論学会第 24 回大会発表論文集』、147–154.
- Murphy, L. 2010. *Lexical Meaning*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 中俣尚己. 2021. 『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』 東京：ひつじ書房.
- 中右実. 1980. 「文副詞の比較」、『日英語比較講座第 2 巻 文法』、157–219、東京：大修館書店.
- Nishida, K. 2007. "Pragmaticalization and the History of Japanese Discourse Markers (N. Onodera, Japanese Discourse Markers: Synchronic and Diachronic Discourse Analysis)." Review Article, *English Linguistics* 24, 184–211.
- 沼田善子. 1995. 「現代日本語の『も』 —とりたて詞とその周辺—」、『「も」の言語学』、13–76、東京：ひつじ書房.
- Onodera, N. 2002. *Japanese Discourse Markers: Synchronic and Diachronic Discourse*

- Analysis (Pragmatics & Beyond New Series)*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Schourup, L. C. 2017. *Common Discourse Particles in English Conversation*. London and New York: Routledge.
- 島田泰子. 2018. 「副詞『なんなら』の新用法：なんなら論文一本書けるくらい違う」、『二松学舎大学論集』61、1-23.
- Shinzato, R. 2011. “From a Manner Adverb to a Discourse Particle: The Case of *Yahari*, *Yappari* and *Yappa*.” *Journal of Japanese Linguistics* 27, 17-44.
- Shinzato, R. 2017. “Grammaticalization of PM/DM/MM in Japanese.” In Fedriani, C. and A. Sansó (eds.) *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles: New Perspectives*, 305-333. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- 飛田良文・浅田秀子. 2018. 『現代副詞用法辞典』東京：東京堂出版.
- 渡辺実. 1971. 『国語構文論』東京：塙書房.

## コーパス

- [1] 国立国語研究所言語開発資源センター コーパス検索アプリケーション『中納言』を用いた『現代日本語書き言葉均衡コーパス 通常版』(BCCWJ) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (中納言 2.6.0 データバージョン 2021.03)